

表計算ソフトとその歴史

表計算ソフトとは

もともとは企業のための会計処理のために誕生したソフトですが、現在ではデータを処理・解析する目的で、次のような分野に幅広く使われています。

- 会計や統計などの計算・処理、データベース (名簿・住所管理など)
- プログラミング (マクロ機能)

表計算ソフトの特長は、次のようなものがあります。

1. 表やグラフが作れる。
2. データを変更すれば、自動的に表やグラフの内容も変わる。
3. マクロをプログラムすれば、複雑な処理も自動的に行なえる。

表計算ソフトの歴史

「表計算ソフト」は、英語では**"Spreadsheet Software"** (スプレッドシート・ソフトウェア) といいます。操作の練習を始める前に、表計算ソフトが「いつごろ」「なぜ」登場し、現在までどのように開発されてきたのかを見てみましょう。

Visi Calc (最初の表計算ソフト)

世界初の本格的なパーソナルコンピュータ**Apple II** (1977年登場: Apple社) 用のソフトとして、最初のパソコン用表計算ソフト **"Visi Calc"** が登場したのは1979年です。当時ハーバード大の学生、Dan Bricklin (ダン・ブルックリン) が夢の中で見たアイデアを元に、Bob Frankstonと開発しました。

Visi Calcはすぐに人気となり、Visi Calcを使うためにApple IIを買う人も多く出てきて、パソコンの普及のさきがけとなりました。

Lotus 1-2-3 (現在の表計算ソフトのもと)

1981年に、現在のWindows系パソコンのもととなる、IBM PC (米IBM社) が発表されました。その互換機も次々と発表されました。

Visi Calcを買収した、米Lotus Development社がVisi Calcを元に、IBM PC用の表計算ソフトとして、**"Lotus 1-2-3"** を1983年に発表しました。Lotus 1-2-3もVisi Calcのように大ヒットし、IBM PC互換機の普及に貢献しました。

MS Excel (最も普及している表計算ソフト)

Lotus 1-2-3が登場するよりも前に、Microsoft社はIBM PC用に**"Multiplan"** というソフトを発売していましたが、Lotus 1-2-3に比べて動作が遅く、人気がありませんでした。

しかし、Windowsが登場させたころ、すでにMacintoshで人気のあった**"Excel"** を、1987年にWindows用も発売するとすぐに人気となり、事実上の標準の表計算ソフトとなりました。

[次へ](#)進んでください。